

シリーズ 挖りくずされる憲法秩序と象徴天皇制

代替わりとマスコミ報道 ——徳仁、雅子天皇制の再編像を読み解く

講師=中嶋啓明（ジャーナリスト）

日 時

8月24日(土)

開始 13:00

終了 16:30

受講料

1回1500円
(学生1000円)

★1回あたりの受講料
が割安になる8枚綴り
の回数券もあります。
お気軽にお問い合わせ
ください！

2 016年8月の明仁のビデオメッセージが、憲法違反の政治行為であったことは、前回講座の清水雅彦氏のお話でより明確になったことと思う。

だが、メディアはひたすら、明仁のありがたい「お言葉」として押し戴くのみ。以降、オベンチャラだらけの一大キャンペーンが展開された。

自ら作り上げた明仁への慰労、感謝の「世論」を根拠に、さらにメディアは、代替わりに向けて世論を誘導していった。まさに自ら火をつけたうえでそれを消して回るマッチポンプならぬ、火に油を注ぎ続けるマッチマッチというべき報道だった。

4月1日の新元号公表を経て、4月末から5月初めにかけての報道はすさまじかった。

この間、天皇制に根本的な疑義を呈する報道はまったくなし。アリバイ的に「憲法と天皇」を語ってみせるが、それらはすべて、代替わり儀式の政教分離違反に居直り、天皇、皇族の「公務」の違憲性を隠ぺいするため、屁理屈をこねくり回したような言説ばかりが垂れ流された。

その基調は今も変わらない。秋の即位礼、大嘗祭を視野に、徳仁、雅子天皇制の民衆意識への浸透、定着を図るべく、切れ目なくオベンチャラ報道は続いている。そうした中で、天皇制の再編強化を狙う女性天皇論議も新たに始まった。

当日は、メディアが主導して作り出す新たな天皇制の再編像を読み解き、より豊かな天皇制批判のあり方を、参加者と共に模索していきたいと思う。

講師プロフィール
中嶋 啓明

ジャーナリスト。大手メディア企業に勤務。肩書は「記者」。「犯罪報道の犯罪性」を主なテーマに活動する「人権と報道・連絡会」の会員。2017年9月まで『週刊金曜日』の「メディア一撃」欄で「人権とメディア」をめぐる連載執筆陣に参加、折に触れ天皇制批判の論考を発表。「靖国・天皇制問題情報センター通信」で「今月の天皇報道」を連載中。主な論考に「外遊経費から見る象徴天皇制の現在—皇太子一家のオランダ「静養」を中心にして」（大阪経済法科大学「アジア太平洋研究センターワン報」2006～07年）、「朝鮮戦争における米軍の細菌戦被害の実態—現地調査報告」（大阪経済法科大学「アジア太平洋研究センターワン報」2003～04年）、共著に『雅子の「反乱』』（社会評論社、2004年）、『検証・「拉致帰國者」マスコミ報道』（社会評論社・2003年）、『憲法から考える実名犯罪報道』（現代人文社、2013年）など。

